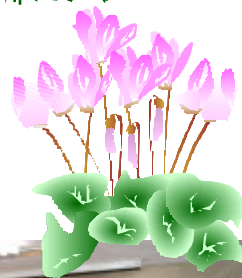


手をつなごう

平成18年11月13日
岡山県立東備養護学校
支援部だよりNO. 20

保護者勉強会

サポートブックを作ろう！



校内支援の一環として、保護者勉強会「サポートブックを作ろう！」を計画しました。

2回実施する予定で、計32名の保護者が参加申し込みをしてくださいました。

すでに勉強して作られているお母さんもおられるので、PTAと支援部共催という形で実施することにしました。

まず、FさんとSさんにお話をさせていただきました。

- ・子どもの苦しさを和らげるための一つのツールになるかなと思い作っている。
- ・家の中で常識になっていることでも初めての人をお願いする時にはどういう説明をすればいいかを考えて作っており、それが子どもを客観的に見る訓練になっているように思う。
- ・短い言葉で分かりやすく書く必要がある。
- ・書いていく中で、子どもが何ができている何ができているかに気づき、それが学校と一緒に作る個別の指導計画につながっている。
- ・個人情報なので取り扱いに注意する必要がある。

など、実際に作って活用しておられる方ならではのお話でした。

その後グループに分かれて、実際に書いてみることにしました。形式は一人一人違ってかまわないのですが、最初は枠があったほうが作りやすいだろうということで、すぐに書き込めるような用紙と、書いたものをすぐに入れられる、ハガキ大のファイルを用意しました。



(井上研究室ホームページ—兵庫教育大学・井上雅彦 助教授—のサポートブックフォームを使わせていただきました。)

とりあえずは作ってみましょうということで取りかかり、各項目について思い当たることを書き出していきました。しかし、相手に分かりやすいように書くことはなかなか難しく、皆さん、悩みながら、お互いに相談しながら書いておられました。時間はあっという間に過ぎ、続きは各自でということで勉強会は終了しました。

サポートブックって？

「サポートブック」は障害のある本人の特徴やコミュニケーションの取り方、対応の仕方などを具体的に見やすくまとめたもので、本人をよく知ってもらい、うまくかわかってもらうためのものです。

ご家庭では、ボランティアやヘルパーの方と外出するとき、病院で診察を受けるときなどに作っておくと便利です。また、レストランやスーパーなど、地域の方に理解してもらいたいときに使うこともあります。

ファイル等を利用し、出し入れが自由にできるようにしておくと、その時々に必要な情報を提供することができます。

